

令和2年度第1回相生市総合教育会議会議録

日 時	令和2年6月22日（月）13時30分から14時30分		
会 場	市役所 3階 議員控室		
出席者	谷口 芳紀	市長	
	浅井 昌平	教育長	
	萩原 喜樹	教育長職務代理者	
	小西 毅	教育委員	
	栗原 英子	教育委員	
	西田 香子	教育委員	
説明員	玉田 直人	企画総務部長	
	宮崎 義正	教育次長（管理担当）	
	坂本 浩宣	教育次長（指導担当）	
	團 剛	管理課長	
	山本 哲也	学校教育課長	
	桑名 正彦	生涯学習課長	
	平松 孝夫	体育振興課長	
	横山 和彦	人権教育推進室長	
	富田 大三	管理課副主幹（書記）	
傍聴者	なし		

1 開会

2 市長挨拶

暦の上では夏至でありまして、これから梅雨明け、続いて本格的な夏の暑さを迎えることとなりますが、委員の皆様におかれましては、くれぐれもご自愛いただきますようご祈念しております。

令和2年度第1回の相生市総合教育会議を開催させていただいたところ、全員の皆様にご出席いただきありがとうございます。

さて、今年度、相生市においては、新型コロナウイルスにより一層の加速が予想される教育ICTの変化に対応すべく、児童生徒向けの1人1台学習用端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する「GIGAスクール構想」に基づき、小・中学校校内通信ネットワークを整備の予算を確保させていただきました。

また、「地域の子どもは、地域で育てていく」気運を高めるために、「声かけ運動 8 3 5（ハチさんゴー）」の取り組みを市内全域で展開し、子どもを見守る体制について、家庭・学校・地域の連携強化を図っていきたいと考えております。

このたび、皆様のおかげを持ちまして市長就任6期目を迎えることができましたこと、御礼申し上げます。今後とも、相生市の将来を担う子どもたちが令和の新時代を心豊かで、たくましく生き抜いていけるよう様々な教育施策を緩めることなく取り組んでまいりたいと考えておりますので、各委員の皆様には、引き続き相生の教育の充実のため、あらゆる面でのご尽力、適切なお助言を賜りますことをお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

3 協議事項

(1) 相生市の教育に関する重点施策について

ア 令和2年度の重点施策について

管理課長

令和2年度の重点施策については、相生市教育振興基本計画に基づき進めております。令和2年度の相生の教育の主な事業を提出させていただきました。

(管理課より機構順に事業概要説明)

管理課	「相生市教育振興基本計画策定事業」、「小・中学校校内通信ネットワーク整備事業」
学校教育課	「小・中学校 I C T 環境整備事業」、「小学校学習指導要領の完全実施」、「声かけ運動 8 3 5（ハチさんゴー）推進事業」
生涯学習課	「国内交流事業」、「唐端清太郎没後 100 年事業及び那波野・若狭野古墳県史跡指定周年事業」
体育振興課	「東部グラウンド整備事業」
人権教育推進室	「ケータイ・スマホ教室の実施」

谷口市長

先日、サンテレビ「はりまサタデー9」で教育施策の放送があり、連携中枢都市構想8市8町で「播磨読本」を作成し、子どもたちに教育しているという話題があったが、相生の記事としては何が掲載されているのか。

教育長

相生では、万葉の岬や感状山城跡が掲載されておりますが、授業の教材としては「わたしたちの相生」をメインに使用している状況です。

谷口市長

I T関係でいきますと、今回の新型コロナの関係で学校だけでなく、日本全体のI T化が遅れているということで、新聞報道には市内全域の光ファイバー網について国が補助するという話題がありましたので、相生市も検討していきたい。

栗原委員

今年度中に、全小中学校にタブレットがいき渡るということで、実際に使い始めるのは、来年度になるのですか。

学校教育課長

整備については、一人一台タブレットとして2,100台を整備いたします。コロナウィルスの第2波、第3波を警戒してということになりますので、実際の稼働については、今年度できるところからということになります。

栗原委員

分かりました。

谷口市長

他にご意見等ないようでしたら、次に進ませていただきます。

教育次長（管）

それでは、「協議事項3（1）のア」について、ご了解いただいたということでしょうか。

市長及び教育委員

了解

教育次長（管）

只今いただいたご意見等を尊重し、令和元年度の事業を進めていく。

4 意見交換

教育次長（管）

続きまして、「協議事項3（1）のイ その他」について説明いたします。総合教育会議は市長と教育委員が、教育に関する諸条件整備や重要施策について協議や意見調整を行っていただく会議となっております。そこで、今後の教育につきまして、まず、教育長職務代理から順に各委員の相生市の教育に関する所感をお聞かせいただき、次に、市長の教育に関する所感をお聞かせいただき、その後、市長と各委員による自

由意見交換を行っていただきたいと考えております。それでは、萩原教育長職務代理
よろしく申し上げます。

萩原教育長職務代理

5月18日に相生市危機管理課よりマスクが届きまして、ありがたく使わせていただき
ます。宛名が高齢者の皆様へととなっているのを見て、私もいよいよそういう歳にな
ったかなと感じております。

教育についてですが、3月からコロナの影響が学校現場を襲っていて、一生に一度
あるかないかの大変な状況ではないかと思っている。教育界だけでなく経済界にとっ
ても大変だと思っているが、普通に学べる大切さ、ありがたさを痛感した3カ月だど
思っている。近所の保護者の方も学校が始まってよかったと切実におっしゃってまし
たので、本当に再開できてよかったと感じております。

さらに、今後の暑さが増すなかですが、子どもたちはエアコンが設置されているの
で、快適に学習ができるということで本当に助かっているなと思います。

次に、コロナ渦での学校便りなどで、コロナへの対応や今後の学校の在り方につい
て細かに情報発信されているので、こういったことも現場の先生方も大変だっただろ
うと思っています。

このような状況で夏休みが9日間と短縮されましたが、これから暑くなる中で熱中
症には留意して、充実した教育活動ができるように期待しております。以上です。

教育次長（管）

次に小西委員申し上げます。

小西委員

コロナで色々な価値観が変わったと思いますが、ネガティブなことは多くある中で、
ポジティブに考えるなら大きく2つおもしろいことがあるなと感じています。まず1
つ目がICTが進みまして、子どもたちがパソコンで色々なことができるようになるの
はいいことですが、パソコンは見るだけで受け身になりがちです。先進国であるニュ
ージーランドの例を見てみると、全世界の中で読解力と科学力がかなりトップクラス
にある。このICTをうまく活用して、どれだけ受け身にならずに授業をしているのか
というのがニュージーランドの特色となっています。例えば、プログラミングの勉強
をしますというときに、丸を描くのにどういうプログラムを入力しますかというのが
一般的な授業ですが、ニュージーランドでは、今から何を作りたいですか、何を描き
たいですかというところから始めて、まず、その描きたいものを考えましょう。その
描きたいものを書くためには、どうすべきなのかということを経験するところから始め
ることで、自分たちで考えることになるので、物事の作り方、やり方、企画力が生ま
れてくるみたいです。せっかくタブレットが一人一台整備されるので、新しい企画力
をもった子どもたちがでてくることを期待して、非常に楽しみだなと思っています。

次に、リモートワークが進むと週に1~2回しか会社に行かなくていいということになっています。そうなると東京や大阪などの都会に住まなくてもいいが、週に1~2回は行かなくてはいけないので、比較的便利でちょっと田舎というところがはやりますよという話を聞きました。例えば、新幹線で東京から約1時間的那須塩原というところは、涼しくて別荘のような田舎に住めるということで人気です。ぜひ、相生市も新幹線もありますので、リモートワークがやりやすい環境ができていますよ、家を建てると安くて大容量のインターネットの接続ができますよというPRをしていただいて、相生市へ誘致をしていただきたいと思いました。

コロナ渦において、この2つが非常にプラスに考えられることではないかなと話をしました。以上です。

教育次長（管）

次に栗原委員をお願いします。

栗原委員

コロナの第2波、第3波が来るかもしれないという中で、先ほどのタブレットが年度内に整備ということでしたが、私も5月にズームでレッスンをやったんですが、双方向ですのと、子どもたちがモニターですのとでは違うものが必要になります。その部分を先生がぜひ備えて、準備をしていただかないと、タブレット等の物は揃ったが、活用が間にあっていませんということがないように先生方もコロナの対応もお忙しいと思いますが、よろしくお願ひしたい。コロナに限らず、今後はタブレットを使用することが増えてくると思いますので、一方的なものではなく子どもたちが生き生きとタブレットに向かっている授業を期待しています。

現在、交流授業ができなくなっていると思いますが、インターネット環境がない家庭にパソコン等をレンタルによって環境ができていますので、例えば相生小学校と那波小学校の交流授業をそれらを使って、多くの顔を見ながらできるんだということをやってみるなど、新しい可能性があるのではないかと思っています。

また、先ほどの小西委員の移住の話は、まさにその通りだなと思いました。

教育次長（管）

次に西田委員をお願いします。

西田委員

タブレットが子どもたちにいき渡って、活発にそれを使われることは喜ばしいことだと思うんですが、それに慣れてしまって、目と目を見て話をする日本のいいところが、最近減ってきている寂しさを感じる。話をしなくても雰囲気からなんとなくわかる以心伝心のような感覚も大事だと思うので、タブレットが良いということはわかっ

ていますが、こういった感覚も忘れてほしくないなと思います。実際に顔を見てというのが、大事なんだろうなと思います。

踊りのことで言いますと、ビデオでお稽古をすると微妙にずれて、踊りの真髓の間が抜けてしまう。コロナで日常が変わってきてますので、早く収まって、日常が戻ってきてほしいと思います。

教育次長（管）

それでは、谷口市長よろしいでしょうか。

谷口市長

私は、常々申し上げておりますように、まちづくりの基本は人づくりであると考えており、その人づくりの根幹となる教育は、地域創生や、まちの元気づくりを推進するにあたり、非常に大きな役割を担っています。

このことを踏まえ、相生市の今後の教育に期待することについて、2点申し上げたいと思います。

まず、1点目は、学校教育分野についてです。

「学びの保障」に関しまして、学校園については、今月1日より長期間の休業からの再開となっておりますが、休業に伴い実施することができなかった授業内容については、子どもたちの学習状況を丁寧に把握しながら、焦らず一人一人の「学びの保障」が図られるようお願いします。

また、子どもたちの心のケアについてもよろしくお願いします。

学力については、子どもたちの確かな学力や豊かな情操の形成に資する、読書活動推進の取組みについて、継続してお願いしたいと思います。また、英語教育の充実のため、ワンピース・イングリッシュ・AIOI 事業につきましても、これまでの成果の検証を踏まえつつ、子どもたちが自発的に学ぶための新たな事業展開を期待しております。

2点目は、生涯学習分野において、子どもから大人までが文化芸術やスポーツを楽しめるよう、新しい生活様式に配慮したソフト・ハード両面での充実をお願いします。芸術文化の振興においては、市民の多様なご意見を反映しつつ「なぎさホール」の自主事業の充実を今後ともお願いいたします。スポーツ分野では、スポーツセンターの活用や東部グラウンド等の整備により市民のスポーツ環境の充実を着実に図っていただきますようお願いします。

市民の皆様が、より一層、明るく元気に過ごしていただけるよう、芸術文化、スポーツを通して、相生市を活性化していければと考えております。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症対策については、市民の皆様のご理解とご協力により感染者を出すこと無く、学校や社会教育施設の再開を迎えることができました。今後も引き続き、新しい生活様式についてご理解をいただきながら長期的な感染症対策が必要となります。このような状況下でこそ、子どもたちの学習や生

活が明るく安心して行える対策が必要と考えますので、各委員には、これまでと変わらぬ格段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

教育次長（管）

ありがとうございます。それでは、先ほどの協議事項も含めまして、自由意見交換を行っていただきたいと思います。

谷口市長

エアコン整備が完了していてよかったと感じている。

萩原教育長職務代理者

本当によかったです。

西田委員

小学校が始まってますが、休み時間の対策はどうなっているのですか。

学校教育課長

休み時間については、体を動かすのであればマスクを外してということになります。接触をしたり、近くで向かい合っというのは避けようという指導をしております。

西田委員

学校が始まってもしこういったことが寂しいという話を聞いたので、かわいそうという部分もありますが、仕方がないのかと思います。

谷口市長

こういったスタイルが根付かないといけない。これからは、ソーシャルディスタンスをとりながら、日本のいいところを求めていかないといけない。

谷口市長

内閣府のアンケートで意識調査をすると、テレワークが進んだことで、若い人の半数程度が東京から離れて自然豊かなところで仕事がしたいという結果になっているみたいですね。

小西委員

子どももテレワークでもやっていける仕事がしたいと言っている。しかし、相生市は製造業が多いので、現場第一主義で一人でもコロナ感染者が出たら製造ラインが止まってしまうという危機感を持っている。

栗原委員

学校では、先生たちもマスクですか。

学校教育課長

教師は、マスクの着用、時にはフェイスシールドの着用で対応しています。

栗原委員

英語指導の場合は、口元がマスクで隠れると発音の指導が難しいとありました。ある高校の先生は、手作りで生徒全員にフェイスシールドを配ってましたが、小学校5、6年生から英語が始まっていますので、どうしているのかなと思ひまして。

学校教育課長

主に音楽の指導や英語の指導でフェイスシールドを使用しています。また、学校主導ではありますが、透明マスクを準備して授業をしているという報告も受けております。

谷口市長

I Tへの先生方の準備が大変だと思う。

栗原委員

人数の多い学校と少ない学校とでも違ってくると思う。オンラインでは側に保護者がいたりすることもあって、家庭の様子も分かたりしますので、家庭訪問の代わりとしても使えるのではないかと思う。

谷口市長

小西委員が言われてたように、子どもたちには受け身でなく積極的になってくれたらと思う。

西田委員

今まで発言できなかった子が、オンラインではできるようになっているという話も聞く。

栗原委員

友達の目を気にすることなく、集中しているのではないかと思う。

小西委員

こうなってくると先生方の対応力が大変だなと思います。私の子どもは、繋がっているパソコンと調べる用のパソコン、それにスマホを持って授業をうけています。次のことを調べながら授業を受けているので、先生は対応するのが大変だと思う。

栗原委員

子どもたちは慣れるのが早いですが、先生たちは大変だと思いますので、先生同士で練習したりする必要が出てくるのかなと思います。

小西委員

端末では、感覚的なものとか人間関係づくりが勉強できないのが難しいところですので、その辺をどうやってフォローしていくのが重要になってくる。

栗原委員

そのあたりは、家庭内でしっかりやっていくことになると思う。

谷口市長

ある程度の距離をとりながら、日本のいいところをなくさないようにするというのが、これからの大きなテーマである。

小西委員

最近の子どもたちはこういった環境的な面もあって、人前で話す能力は高いと感じる。テレビ慣れしているというか、オンラインで自分の番になるとすぐに対応して話し始める。これは、昔の子には無かった部分だと感じる。

栗原委員

コロナに関係なく、今後はICTの運用をしていただきたい。また、子どものいる家庭は、よく状況を分かっていると思うんですが、それ以外にも周知をお願いしたい。

谷口市長

第2波が来た場合は、学校に行かずにオンライン授業をするのか。

教育長

現状では、オンラインによる双方向は困難ですので、しばらくは、プリントになると思う。プリントの方が先生と子どもたちの繋がりが深くなると思っている。4、5月は、先生が届けたり、中学生は提出するなどの方法で課題のやりとりを行った。

他に学習アプリの活用などを行うこととなる。

栗原委員

タブレットの使用方法は、先生が何かを発信するということですか。

学校教育課長

現時点では、ウェブ学習ということで、業者が作成しているドリル教材を子どもたちが家庭で解いて、その結果を教師が確認することが可能となっている。また、

YouTube チャンネルの紹介や各教科書会社が作成している学習コンテンツの紹介をメインに実施している。

栗原委員

今後もそれがベースとなるのか。

学校教育課長

それをベースとして実施していきたい。

萩原教育長職務代理

もともとICTの学習というのは、個に応じたきめ細やかな指導の一手段として自分で興味のあることを調べるために導入されてきたので、コロナのオンライン学習とは本質的に違う部分がある。新しい学習指導要領には、対話や体験が多く盛り込まれており、やはり体験などが本質だと思うので、タブレット学習が入ってきても、ICTを活用しながら置き去りにならないようにしていただきたい。

栗原委員

乗り遅れないようにお願いしたい。

栗原委員

唐端清太郎さんの関係がありましたが、子どもたちが学ぶ機会はあるのか。

学校教育課長

小・中学校の社会科の副読本である「わたしたちの相生」「身近な地域相生」で唐端清太郎の紹介がされているので、学校教育の中でふれる機会はある。

教育委員次長（管）

今後の相生市教育に関し、貴重なご意見をいただいた。

今回のご意見を踏まえ、事務局として関係部課とも協議を行い検討させていただき、次回この会議の場において協議をお願いしたいと考える。

浅井教育長 閉会の挨拶

令和2年度第1回相生市総合教育会議を終了